科目		学籍番号		氏名	

朝日新聞 時事ワークシート
図表の読み解き

観光客　戻ったけど

※原文から一部書き直している場合があります。

解答・解説

日本を訪れる外国人観光客がコロナ前の７割まで回復してきた。国内旅行の需要も高まるなか、宿泊料金は高騰。一方、人手不足が深刻で、需要の急増に追いつかない状況が続いている。

全国2万7663社を対象に調査したところ、正社員の人手不足の企業割合は「旅館・ホテル」が75.5%と業種別で最も高く、非正社員でも78.0%と飲食店に次いで２番目の高さだった。旅行の需要は高まるものの、それに対応するだけの人手が足りない。そのため、客室の稼働率を下げ、単価が高騰するという状況になっている。

また、人気の観光地では、混雑が地域の生活に影響を及ぼし、対策に追われている。

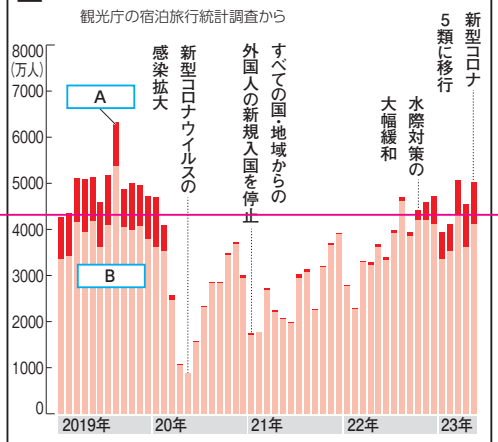
観光庁は、オーバーツーリズム*などへの配慮から、訪日客の「数」よりも「消費額」を重視する目標を示している。３月に閣議決定した「観光立国推進基本計画」では、訪日客の消費額について年間５兆円を早期に達成するとした。

言葉の解説

＊オーバーツーリズム…観光客の増加によって、市民生活や観光客の満足度などに負の影響をもたらす状況。「観光公害」とも呼ばれる。

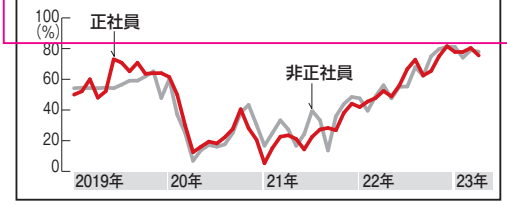
図Ⅰ　全国の延べ宿泊者数はコロナ前と同水準に

観光庁の宿泊旅行統計調査から



図Ⅱ　旅館・ホテルの人手不足割合の推移

帝国データバンクの調査から



日本政府観光局（JNTO）によると、6月の外国人観光客は207万3300人で、新型コロナの感染拡大前の2019年同月比で72%まで戻った。22年10月に新型コロナの水際対策が緩和されてから回復が続いており、国・地域別では韓国が最多で、台湾、米国と続く。コロナ前は最多だった中国からの観光客は回復が遅れている。

全体の客室数に対する実際に利用された客室数の割合。

問題1　図Ⅰ中の A と B は「日本人宿泊者」「外国人宿泊者」のどちらかを示しています。あてはまる言葉をそれぞれ答えなさい。

A（外国人宿泊者）　B（日本人宿泊者）

コロナ禍で激減し、水際対策の大幅緩和以降、増えてきたAが「外国人宿泊者」である。

問題2　旅行の需要が高まる一方で、宿泊料金が高騰しているのはなぜですか。図Ⅱや本文を参考にして、簡単に説明しなさい。

（例）多くの旅館・ホテルでは、高まる需要に対応するだけの人手が足りないため、客室の稼働率を下げているから。

図Ⅱからは、人手不足の旅館・ホテルの割合が高まってきていることが読み取れる。本文は１、２段落目が参考になる。

問題3　観光庁が訪日客数よりも消費額を重視するのは、観光地でどのような問題が生じているためですか。「混雑」「オーバーツーリズム」という言葉を使って、簡単に説明しなさい。

（例）混雑が地域の生活に負の影響を及ぼすなどのオーバーツーリズムが生じているため。

本文３段落目と最後の段落を参考にする。外国人観光客に人気の京都や箱根などでは、電車やバスがごった返し、地元の利用客から苦情の声が出ている。コロナ前からオーバーツーリズムの問題はあったが、以前と違うのは、コロナ禍で減った人手が戻らないため、急増する観光客に対応できていないという点である。

プラスアルファ

訪日外国人消費動向調査によると、４～６月の消費額は１兆2052億円。特に宿泊日数が平均7.1泊と2019年同期の6.2泊より長くなった。長く滞在する分、消費額が増えるため、１人あたりの消費額も20万５千円と19年から３割増加した。高橋一郎観光庁長官は「一部の観光地で混雑やマナー違反による地域住民の生活への影響や、旅行者の満足度の低下への懸念が生じている」と指摘。地方に誘客したり、旅行を平日に分散させたりする政策に取り組む考えを示した。また、城西国際大学・観光学部、佐滝剛弘教授は、「欧米の人たちは安く長く泊まる旅行スタイルが多い。１泊あたりの高いホテルを増やすことではなく、日本に長く滞在してもらう戦略にももっと取り組むべきだ」と話す。

2023年7月20日掲載【経済・生活】

© 朝日新聞社2023

朝日新聞 時事ワークシート
図表の読み解き

観光客　戻ったけど

※原文から一部書き直している場合があります。

解答・解説

日本を訪れる外国人観光客がコロナ前の７割まで回復してきた。国内旅行の需要も高まるなか、宿泊料金は高騰。一方、人手不足が深刻で、需要の急増に追いつかない状況が続いている。

全国2万7663社を対象に調査したところ、正社員の人手不足の企業割合は「旅館・ホテル」が75.5%と業種別で最も高く、非正社員でも78.0%と飲食店に次いで２番目の高さだった。旅行の需要は高まるものの、それに対応するだけの人手が足りない。そのため、客室の稼働率を下げ、単価が高騰するという状況になっている。

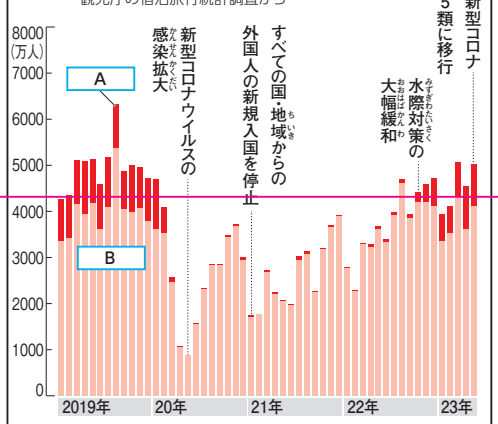
また、人気の観光地では、混雑が地域の生活に影響を及ぼし、対策に追われている。

観光庁は、オーバーツーリズム*などへの配慮から、訪日客の「数」よりも「消費額」を重視する目標を示している。３月に閣議決定した「観光立国推進基本計画」では、訪日客の消費額について年間５兆円を早期に達成するとした。

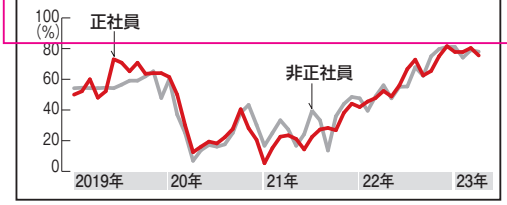
言葉の解説

*オーバーツーリズム…観光客の増加によって、市民生活や観光客の満足度などに負の影響をもたらす状況。「観光公害」とも呼ばれる。

図Ⅰ 全国の延べ宿泊者数はコロナ前と同水準に
観光庁の宿泊旅行統計調査から



図Ⅱ 旅館・ホテルの人手不足割合の推移
帝国データバンクの調査から



日本政府観光局（JNTO）によると、6月の外国人観光客は207万3300人で、新型コロナの感染拡大前の2019年同月比で72%まで戻った。22年10月に新型コロナの水際対策が緩和されてから回復が続いており、国・地域別では韓国が最多で、台湾、米国と続く。コロナ前は最多だった中国からの観光客は回復が遅れている。

全体の客室数に対する実際に利用された客室数の割合。

問題1 図Ⅰ中の A と B は「日本人宿泊者」「外国人宿泊者」のどちらかを示しています。あてはまる言葉をそれぞれ答えなさい。

A（外国人宿泊者）　B（日本人宿泊者）

コロナ禍で激減し、水際対策の大幅緩和以降、増えてきたAが「外国人宿泊者」である。

問題2 旅行の需要が高まる一方で、宿泊料金が高騰しているのはなぜですか。図Ⅱや本文を参考にして、簡単に説明しなさい。

（例）多くの旅館・ホテルでは、高まる需要に対応するだけの人手が足りないため、客室の稼働率を下げているから。

図Ⅱからは、人手不足の旅館・ホテルの割合が高まってきていることが読み取れる。本文は１、２段落目が参考になる。

問題3 観光庁が訪日客数よりも消費額を重視するのは、観光地でどのような問題が生じているためですか。「混雑」「オーバーツーリズム」という言葉を使って、簡単に説明しなさい。

（例）混雑が地域の生活に負の影響を及ぼすなどのオーバーツーリズムが生じているため。

本文３段落目と最後の段落を参考にする。外国人観光客に人気の京都や箱根などでは、電車やバスがごった返し、地元の利用客から苦情の声が出ている。コロナ前からオーバーツーリズムの問題はあったが、以前と違うのは、コロナ禍で減った人手が戻らないため、急増する観光客に対応できていないという点である。

プラスアルファ

訪日外国人消費動向調査によると、４～６月の消費額は１兆2052億円。特に宿泊日数が平均7.1泊と2019年同期の6.2泊より長くなった。長く滞在する分、消費額が増えるため、１人あたりの消費額も20万５千円と19年から３割増加した。高橋一郎観光庁長官は「一部の観光地で混雑やマナー違反による地域住民の生活への影響や、旅行者の満足度の低下への懸念が生じている」と指摘。地方に誘客したり、旅行を平日に分散させたりする政策に取り組む考えを示した。また、城西国際大学・観光学部、佐滝剛弘教授は、「欧米の人たちは安く長く泊まる旅行スタイルが多い。１泊あたりの高いホテルを増やすことではなく、日本に長く滞在してもらう戦略にももっと取り組むべきだ」と話す。

2023年7月20日掲載【経済・生活】
© 朝日新聞社2023